

ポストコロナ時代の同窓会は「楽しむ場」に

松原秀幸

(高19回 在京飯田高校同窓会会長)

私の大好きな女性歌手J・U・J・Uは、熱を出したことがないそうです。あるラジオ番組で、彼女は、「実は、若い時に38度の熱でステージに立ったら、辛くて死ぬ思いをした。どうしたら健康が維持できるかおじいちゃんに尋ねると、『手洗い・うがい』をしつかりしなさいと言われて、ずっと続けている。それで降熱を出したことがなく、無事に舞台を務めている。これが新型コロナウイルス予防や喉ケアにつながっている」と話しているのを聞きました。なるほど！まさにポストコロナ時代のなすべき秘訣です。それから私も、以前より念入りに手洗い・うがいをしています。これからの日常生活は、「3密を避け／手洗い・うがいを徹底／マスクをする」です。

同窓会活動もこのようなポストコロナの環境下でどのように運営していくかを考えてきました。その結果、どのように「楽しむ場」を提供できるかに思い至りました。

同窓会の集まりを「楽しむ場」として提供する

在京飯田高校同窓会定期総会は、総会幹事学年（55歳時に担当）の皆さんにより1年間の準備を経て開催されます。またその他にも幾つかの役割を担ってもっています。

まず、在京同窓会登録者約4千名への発送作業。幹事学年約20名と役員約10名が集まり、2日間かけて総会開催通知等の資料と『稻穂』を封筒に入れ、発送作業を行います。また、『稻穂』の「55歳のつぶやき」の執筆を十数名のメンバーが担当します。

●まつばら・ひでゆき

上飯田出身。放送委員会・落語班。1971年沖電気工業入社・通信システム事業に従事、OKIコンサルティングソリューションズ社長、退任後事業継続マネジメントのコンサルティング。趣味は各種受賞作品の文庫本を週1作品程度読むこと、スポーツライブ観戦、リハビリ兼ねてジム通い。



準備をした総会幹事の多くは、総会終了後、「参加できて良かった／このような在京同窓会活動があることを知らなかった／また会いたい」等々と苦労も忘れて感想を言い合い、これを機会に高校時代の同期会をしようということになって、多くの会が生まれてきました。これからもこの集まりを「楽しむ場」として、新たな出会いのきっかけにしていきたいと思えます。しかし、コロナ感染によって、人と人との接触を制限されるという閉塞感を経験し、会合も出来ないことで、改めて「旧友と出会い・語り・楽しむ場」の重要性を実感します。今後「楽しむ場」として、同窓生が集まる機会を提供していくために、従来の体面による各種行事のほかに、コミュニケーションツールの積極的活用を検討し、実現していこうと思います。

3年ぶりに定期総会をアルカディア市ヶ谷で開催予定

今年の定期総会は、東京都の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を遵守し、3密を避けるため、会場はスクール形式にして開催します。たいへん残念ですが、懇親会は中止とさせていただきます。

久しぶりの総会開催となります。皆様の元気なお姿にお目にかかれることを楽しみにしております。ぜひ、多くの皆様にお集まり頂けますようお願い申し上げます。詳細は「令和4年度在京飯田高校同窓会・定期総会ご案内」をご覧ください。

最後に、『稲穂』発刊に際し、多くの皆様から寄稿をいただきました。また協賛広告・協賛金、サポーター支援と資金面でもご支援を頂きました。厚くお礼申し上げます。

第19号から原誠新編集長(高23回)のもと新体制がスタートしました。本号から、「年度別幹事」や「同期会便り執筆者」の皆様は執筆者候補の推薦をお願いしたところ、多くの推薦を受けました。お礼を申し上げると共に、今後も皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。